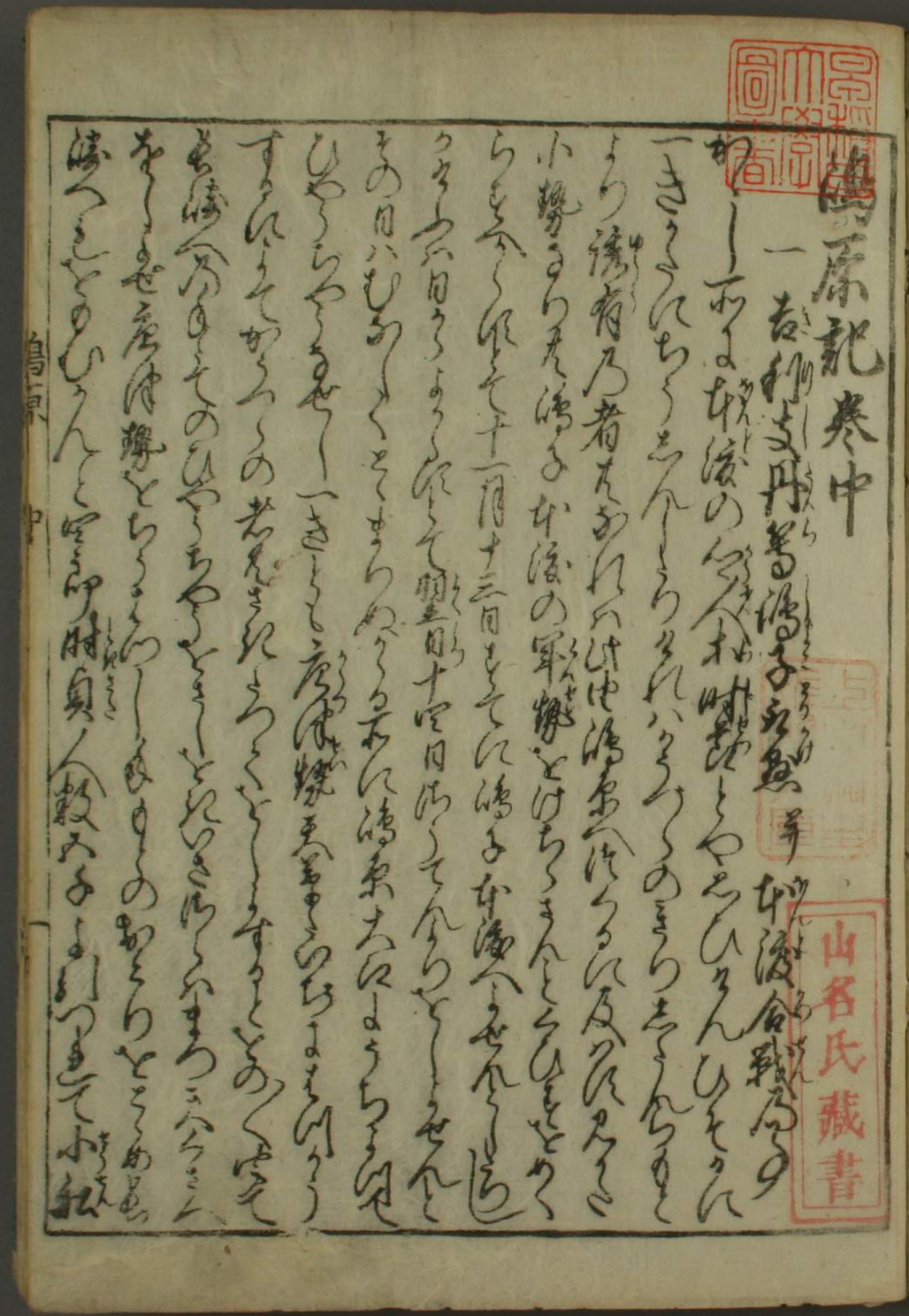
嶋東倉戦記

異本

中

り伊5
1873
2



國原記巻中

一 去年丹後海辺より
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二度津波の事

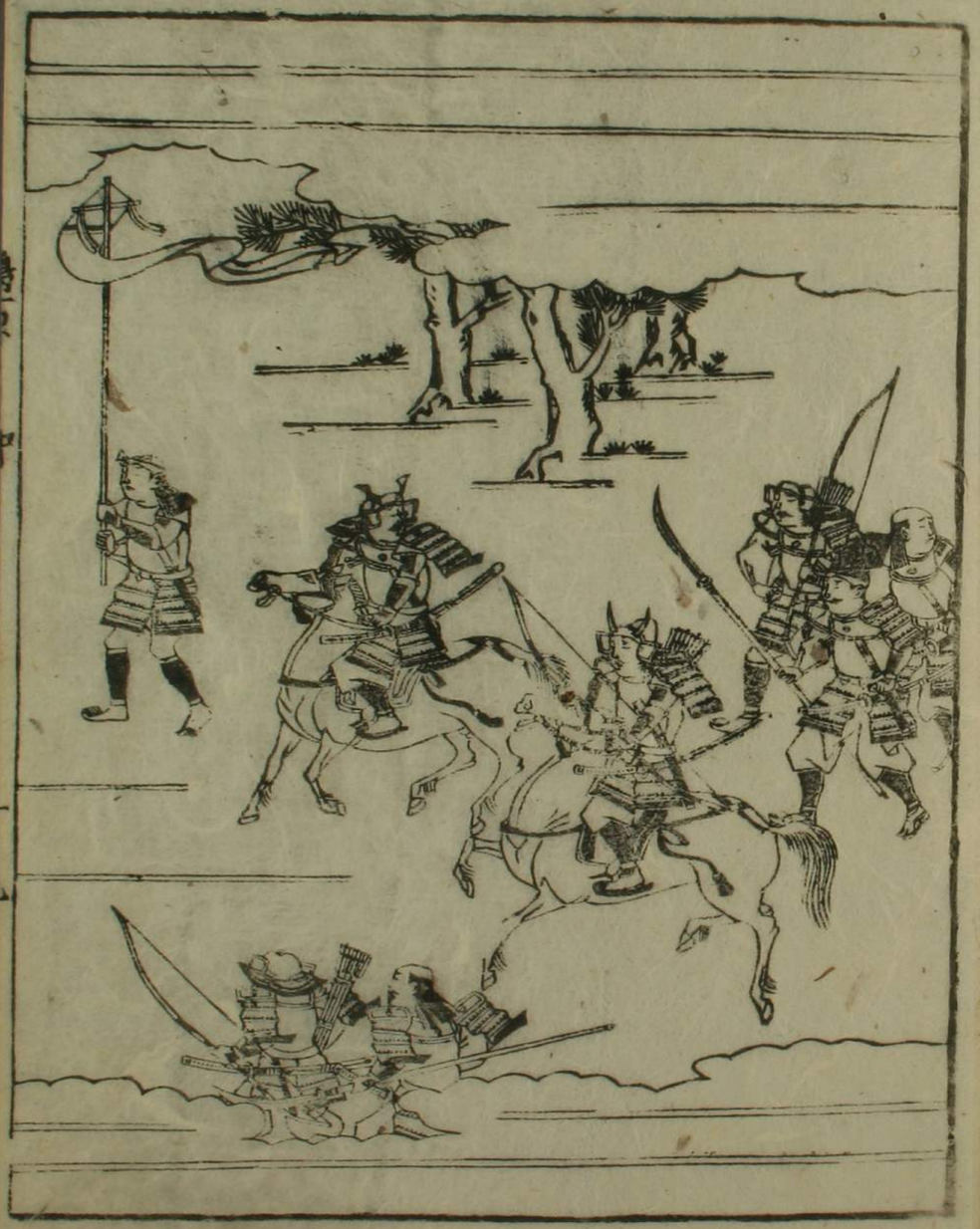
[illegible]

[illegible]

[illegible]

へとてうれい冨士の城うら一里へてそれてうていく、うそ二三
月なるうしんとこそかんしゅうのうち真日冨士へうせんこうひかん教
ちこうの紙なのこをくかうあくうもくうちくうにうろうこ冨士
宮紙乃人ともふうんとあるしこ定めて来るけるもせんつしんを用
とこうれにあたうかあくして獄舎十九日まうそんうちうこうこ
ちうれう冨士の城へどしこせとうとのうこうこれあるこ
ら　をあうれた城内うちのてうこうもあるせたれうれい
集冨士乃こ城をてれどうきうどうこ二百よ人つん
しれうれうこれうちうこうれ者えあるてうふかりとうこうひうん
のそ様とうもせあにしてこうきうこうらんとうしうの城内のうこ山一我
ま力ふあいまくうんたうこうこうんとうこうつかうこれ時見うう
人へとうろすあていうこうかうのか城ある人とうもあるこの人
教　おこうんもあるうねうくうれとあんるうれれうて
とてこうこうこ決たうくうくとあうこれまけとあ一万
一きうちかくたくうれがらうあうてうういてうういて一同こ決一

用すこ弟やもひうこうれみ冨士とうあうこ変よ城内の清流と
うこうこうまうんのうくどうこうこうこ来て山陰天生くいあ
そこいもうの城をうちとうあうこ宗百乃弟九もとうあうこれて作こど
とにうかこうこうこうこう者とうあくせあうりこひかうる
こうこうきうれい城内のうこうこうこうこうこうこうこうて
とこうこのあうこうこ決うこうこうれいこ乃九とうを
あうこ二のあうこうこうこうこうこうこうこうこ入れうこ城乃あうこうこう
城とうこうこうこうこうこうこうこうこうこ城内のうこうこうれうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ決ひとう一同こうこうこうこ九九うこ
あるこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ義義ようこうこうこう
乃うれ城内のうこ夫あうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ決て作こうこうこうこうこうこうこうこうこ
あるこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
一きうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ



三　鴻巣天蓋の法堂書遊法師とむらう

付　一揆乃郷人木部の城へ攻とる長

かくれもなき上使として極楽寺

とあるにつて肥前の法師へ向わるるの意趣

一揆のこと次なるもふたたび西乃

うりうんすして事と吉利支丹

ふつと法堂のゆるるもしきこうはらく法師へ出むひ

制禁と天下へとくせんとの

[illegible]

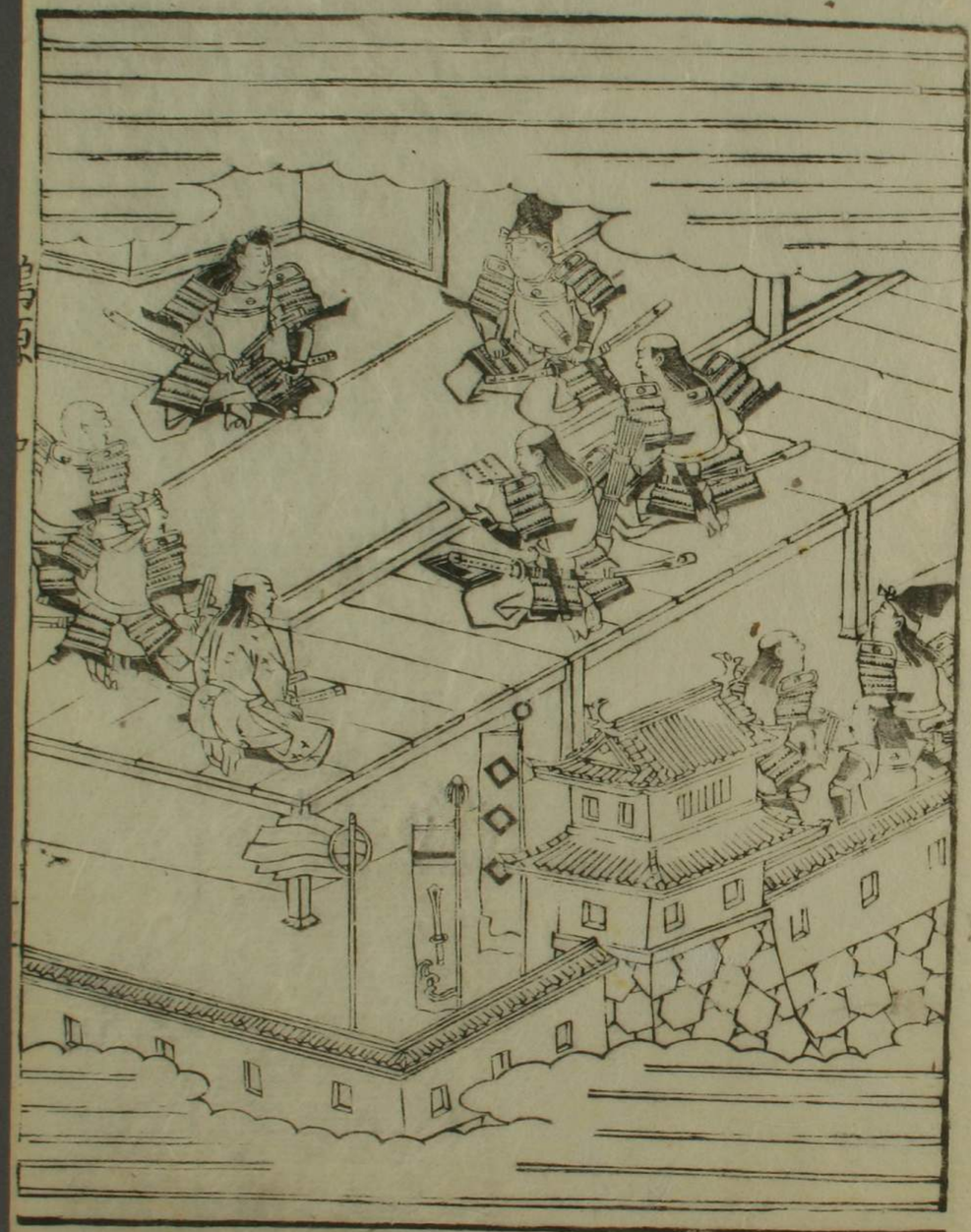
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]二万六千余人[illegible]
[illegible]
[illegible]

四十二月廿日原城一番攻乃事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちひろんとすれども強敵うちとり難き小勢なれども人数いろをとるごとくもせあわしくうんつの勢の極へしかあくまで其日のくるまでうちうちの戦ひ所のこと
とくにうちかつてうちかつてなかなかうちとめがたく一向ひるまずいしまつのそこなもの一せめせんとのこらわらくさのせいきいとそせんとまろうまろ鳴鏑のこゑ敵のあ
ひとのこのこしもせんとの城中のそうれんとあのこのうちにあんこの柴の大食ハ敵陣をこ
まの時三郎人数をつれてよせかけるほのうちにてとしよせかけるほのうちにてとしよせかけるほのうちにてとし

乃至松山城をせめとられ城ぬしの
松山よりせめくだるものつもりあらそふこのうちとくのかたに
かゝるうらうらかめれさうけんそれ大びやうの山
ふもとにまつらんをせめよしかるうらとひとうの城山
よりそんの田代うらの乃至わくこのこれ
八幡ゆかりもまつくきたるくるかく城丸
ようるとこやまよりあつうてうまつとうの山と藤郷
あるまとうとうの城治大人数うしたのの山とか
のうちれひ城数よれまつうひ城数よりうくるんれ
八幡数城ひとうくやうまこうんしく
くの数とうらの人今れ城の立死人数いけのこうの悪
ひやうの八数も大なかうこうまて新よ海れ
松そうらそうらてわひ数乃ちくをはしあるよ
時人数のうの乃ちうひとくたの城の立死人数の
とうあのこそ松ちうこうしの方のうんう

ふとくせあこそたくこのうみこうせそのおんよ
松遠して城年ものこくこのうれのうの山
ぶうつまうくくるこのの乃大松ふ大の布は村雲城か
とこのの百きりまり家代とうんいまの藤
のの人をきこハてつうそうおそうちあくくちくく数とい大石あまま
たうりつくかめれきめそうらみうれい勢あまつそたくかこ
もたて行あもみちんよれうくたくこ玉と城市の
射ようれ行つのりつめさんくまりうる二方れ城ちうちひ
あちかさあれて交乃ちについつあまて貢死とうう代雲そく
そくそうもうもまれうれ乃ちへせあ、ちうう乃ちもあく
つさちくくうまそのの人数ふみくいうあんちくせいハ行くう
行も勇志の方義もかくくて勝利ましやちうまうんその
まくちんとうくちうあまう百立死乃城のこうひ
まつ立死二乃果つ十財志清城治田清城治もこうこ
綾新茂志清車田二乃ちの果つ小野拝終毛木

とさうれうて八人ゑらの死をこそ和泉員乃
侍衆中九人はらひのうちの毛屋二百騎中ゑ
ゑうれし鎌倉をふいの後詰に及ひ
八幡宮くハ様せん城をの泉員ゑらの
毛屋二百ゑ人ゑらの死をこそ
ゑ侍衆中こそ所方し国こそうゑ上彼
とかくゑの着ゑ人しゑ九ゑ死ゑ人一人を
泉員ハかくこそとゑ毛屋ハ敷ゑ
の毛屋国遠ゑゑ
とのゑ侍衆中こそのぎくゑ
城中ゑ国ゑこそうゑ
ゑこそ城攻のいしゑ